

<平成29年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

大分県 中津市立豊陽中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



実 施 内 容

- 期 日 : 平成29年11月6日 (月)
- 場 所 : 中津市立豊陽中学校
- ク ラ ス : 2年2組 (32名) 2年3組 (32名)
- オリンピアン : 石野 枝里子 先生 (スケート・スピードスケート)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・簡単な自己紹介の後、運動、座学の時間を通して「皆で協力し合うこと」、「全力で取り組むこと」、「人の話をしっかり聞くこと」の3つを約束し、積極的に取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・6班に分かれてスケートルーを実施。ポリ袋等の備品を片足に装着して、前足に雑巾を置き滑らせながら進み、右足、左足両方で実施の、計2回戦行う。1回戦前、2回戦前と作戦タイムを設けて実施。2回戦目はほとんどの班がタイムを伸ばすことができ、石野先生より最後まで皆で応援し合っていたのがとても良かったと伝える。

4. まとめ



・授業の冒頭で話した「協力し合うこと」「全力でやること」「人の話を聞くこと」の3つの約束を守れたかを確認。
 ・座学の時間では運動の時間に感じたことを振り返りながら更にオリンピックについて学んでいくと伝え、授業終了。



実 施 内 容

■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・ 2006年トリノ大会の映像を見せながら、スピードスケートについて紹介。
- ・ オリンピックシンボルに込められた意味やオリンピックの開催意義について紹介し、3つのオリンピックバリューについて自身の経験を交えながら説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- ・ 発問①： 学校生活の中で感じるオリンピックバリューについて考える。
- ・ 発問②： 運動の時間に実践できたオリンピックバリューを班ごとに考える。
- ・ 発表： 全力を尽くした、1位になる努力をした(エクセレンス)、声を掛け合った、応援した、協力して作戦を立てた(フレンドシップ)、先生の説明をしっかりと聞くことができた、チームメイトに感謝した、他のチームも応援した(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・ オリンピック選手だけがバリューを感じられるのではなく、皆も日常生活の中でバリューを感じることができるので、今後の学校生活や普段の生活の中でもバリューを思い出して実践してほしい。
- ・ 2018年には平昌、2020年には東京でオリンピックが開催されるので、出場している選手にとってのオリンピックバリューについても意識しながら大会を見てほしいと話し、授業終了。



実 施 内 容

- 期 日 : 平成29年11月7日 (火)
- 場 所 : 中津市立豊陽中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (32名) 2年4組 (33名)
- オリンピアン : 阪本 章史 先生 (自転車・BMX)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・ 阪本先生が自転車で登場し、簡単に自己紹介をした後、今日のオリンピック教室では、スポーツを通して様々なことを学ぼうと授業の目的を確認。BMXのデモンストレーションを行った後、準備体操と鬼ごっこを実施。

3. 主運動



・ 3チームに分かれて8の字跳び(90秒×3回)を実施。90秒間で跳んだ回数を競い、引っ掛かっても続きから数える、跳んだ回数を正確に数えることをルールとした。各回終了後、工夫した点、改善点を各チームから発表し、「気持ちを1つにした」「回すスピードを早くした」等の意見が挙がった。最後にクラス全員跳びに挑戦。

4. まとめ



・ 運動の時間は皆が意見を出し合い、聞き入れていたことがすごく良かったと伝え、次の座学の時間ではオリンピックについてより詳しく説明すると予告し、授業終了。



実施内容

■授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・映像を見せながら自己紹介をした後、オリンピックシンボルの意味やBMXについて紹介。アメリカでプロ選手になるという目標に向けて努力した過程やオリンピックに出場した経験から得たオリンピックバリューについて説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- ・発問①：普段の生活の中で感じるオリンピックバリューを考える。
- ・発問②：運動の時間に実践できていたオリンピックバリューについて班ごとに考える。
- ・発表：全力を尽くした、諦めなかった、楽しんで取り組んだ、(エクセレンス)、チームワークを意識した、声を掛け合った、失敗しても励まし合った(フレンドシップ)、失敗してもフォローし合った、縄を回してくれた人に感謝した(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・オリンピックバリューはオリンピック選手だけのものではなく、皆も日常の中で感じることができる。2018年には平昌、2020年には東京でオリンピックが開催されるので、今日の授業で学んだことを頭に置いて試合を見たり、選手やボランティアとして積極的に関わってほしいと伝え、授業終了。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組





■ 集 合 写 真

2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

2年1組



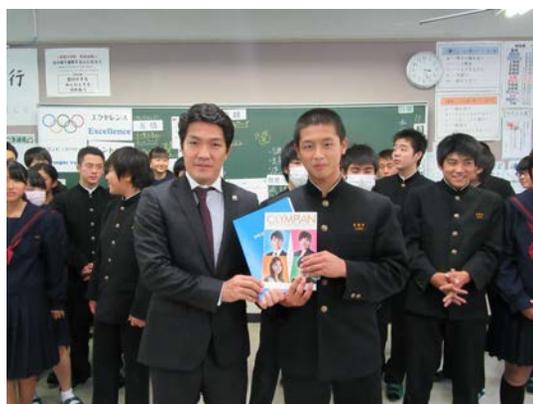
2年2組



2年3組



2年4組



■ 証明書贈呈

